

すこやか北星



子どものやる気を引き出す「魔法の言葉」

親や教師の言葉かけをちょっと変えただけで、子どもたちの目を輝かせたり、モチベーション（やる気）を高めさせたりすることができる「魔法の言葉」に変身します。

野球の試合で興味深いエピソードがあります。

Aチームには速い球を投げるピッチャーBがいて、Bの武器は、高めのストレート。彼が登板すると相手チームの打者は高めのストレートに手を出して、凡打の山を築いてしまいます。そこでCチームの監督は試合まえのミーティングで次のような指示をだしました。「お前ら、絶対にBの高めのストレートに手を出すなよ」。さて、試合が始まると、Cチームの誇る自慢打線は、Bの快投の前に沈黙してしまっただけです。ゲーム中盤に差し掛かり監督は叱りつけます。「お前ら、なんでワシの言うことが聞かれへんねん。高めのボール、打つな言うてるやろ。手を出したらあかんのや。」選手たちを奮い立たせようと大きな声で怒鳴ったのですが、それはむしろ逆効果になりました。

監督はどういう指示をだすべきだったのでしょうか。

監督は「高めに手を出すな」ではなく「低めを狙っていこう」と指示を出すべきなのです。

「高めに手を出してはいけない」と思うのは、一見ミスを回避しようとする注意深い思考のように思えますが、実は失敗のイメージを刷り込んでいるに過ぎないのです。気を付けようと思うことが、逆にマイナスイメージを膨らませ、その方向に体を動かすようにしてしまっていたのです。

日々の生活の中から同じようなことがいえます。子どもを学校に送り出す時に「急に飛び出したらダメだよ」と子どもに声をかけるより「右と左をちゃんと見てから道路を渡ろうね」と声をかけた方が効果的なのです。

このように、「〇〇するな」というような、打消しの言葉を使うのではなく、「〇〇しよう」というポジティブな教え方をすることで子どもたちの意識や行動はずいぶん変わってきます。

学校や家庭において、教師や親が、子どもの欠点やミスを指摘し、厳しく叱責を繰り返しているとしたら、それはマイナスイメージを子どもの心にインプットしていることに他なりません。もちろん、叱責が必要な場面もあるでしょうが、欠点修正の指導ばかり行くと、子どもの意欲や根気強さを著しく減退させ成長のチャンスを潰してしまうことにもなります。

私たちは子どもたちのやる気を引き出すようなポジティブな「魔法の言葉」をいくつかの引出しに入れて準備しておき、必要に応じて、子どもに言葉かけができるようにしたいものです。

※「一流の指導力」立花龍司著 ソフトバンク新書、「勝つためのメンタル」大儀見浩介著 日経プレミアシリーズ 参照

子ども

ドロシー・ロー・ノルト（米国の教育学者）

批判ばかりされた子どもは、非難することをおぼえる
殴られて大きくなった子どもは、力にたよることをおぼえる
笑いものにされた子どもは、ものを言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた子どもは、鈍い良心のもちぬしとなる
しかし、激励を受けた子どもは、自信をおぼえる
寛容にであった子どもは、忍耐をおぼえる
賞賛を受けた子どもは、評価することをおぼえる
フェアプレーを経験した子どもは、公正をおぼえる
友情を知る子どもは、親切をおぼえる
安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる
可愛がられ抱しめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることをおぼえる



5・6年生150名 交通安全鼓笛パレード 堂々の演奏

20日(水)須賀川市内の小学校16校1,284名が一堂に会し「平成27年度第44回交通安全鼓笛パレードが行われました。皆様の温かい声援と大きな拍手ありがとうございました。



鼓笛パレード 6年3組 山崎琴美

今年のパレードも大勢の人達が私達の姿を見に来てくれました。

ファンファーレが終わり私の笛で曲がスタートしました。少しずつみんなが慣れてきて順調に演奏がすすんでいきました。私も安心して続けることができました。

この鼓笛パレードは、5年生にとっては最初で、6年生にとっては最後です。私はこのことで頭がいっぱいでした。みんなをまよわせず最後まで連れて行く。そして、これが出来た時とてもすっきりしたし、私の中で「やりきった。」という言葉が心にひびいていました。

9歳から12歳はゴールデンエイジ

この時期は神経系の発達が、ほぼ完成に近づき形態的にも安定した時期になる。そして動きの巧みさを身につけるのに最も適している。そのため、この時期は、一生に一度だけ訪れる、あらゆる事を短時間に覚えることが出来る「即座の習得」を備えた時期と言われている。さらに精神面でも自我が芽生えてきて、他人を意識するようになり、スポーツでも勝ちたいと言う競争心が旺盛になってくる。したがって、自分で考えて行動できるようなスポーツ選手としての基本を身につけるように指導すべきである。そしてゲームを通して、スポーツに必要な技術を理解し、反復練習によって将来大きく成長するための基礎を作り上げる事が出来る。このゴールデンエイジの時期は、高度な技術も身につけることが出来る時期で、しかもこの時期に一度身につけた技術は大人になっても身につけている。したがって、この時期に高度な技術を習得することが将来大きく伸びるために必要なことである。※久川太郎(流通経済大学)